

# 令和7年度 文京区立昭和小学校 授業改善推進プラン

## 第6学年

教科	指導上の課題の分析⇒	指導の在り方⇒	授業改善の視点
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>○話し合い活動において、自分の意見をまとめて伝えたり、友達の意見を聞いて議論を深めたりする力に個人差が大きい。</li> <li>○文章の概要を正しく把握し、文章を読み深める力に個人差が大きい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○目的や相手に応じた話し方や書き方の構成や工夫を考えさせ、まとめた文章を書いたり話したりできるようにする。</li> <li>○主語・述語・目的語や、目的や意図、因果関係を明確にすることを意識して読む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○読解の学習を進める中で、要旨を書きまとめたり、読み深めたことについて自分の意見を書いたり、発表したりするなど、様々な活動を通して意欲を高める。</li> <li>○一問一答形式の簡単な発問を繰り返したり、児童から児童へと発言が繋がる発表の形式を多く取り入れたりする。また、出来事や言動の因果関係を詳しく読んだり、事実と感想、意見を表にまとめたり、友達と交流したりしながら、概要を正しく把握できるようにする。</li> </ul>
社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>○知識を定着できている児童と、定着できていない児童の二極化がある。</li> <li>○社会的事象をもとに考えたことや思ったことを表現することに課題がある。また、事象を比較したり、関連付けたりすることで考えを深めることが苦手である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ノートに調べたことを整理したり、友達と学び合ったりする活動を多く取り入れることで確かな理解を図る。</li> <li>○考えたこと・思ったことを表現する時間を確保する。また、事象を比較したり、関連付けたりする活動を設定する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○問題意識をもって、児童が自分に合った学び方を選択判断しながら、学ぶことができるようにする。また、学んだことをアウトプットし、学び合う時間を確保する。</li> <li>○社会的な見方・考え方を働かせられるように授業を構成するとともに、発問を工夫することによって、思考を促せるように指導する。</li> </ul>
算数	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学習の基礎基本となる内容の定着に個人差があり、学んだことを積み上げるのが難しい。</li> <li>○自分の考えを表現するときに、根拠を示し、筋道立てて説明することが苦手である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「わかる」「できる」「使える」を意識した指導を展開する。</li> <li>○授業の中で、自分の考えを表現する場を意図的に設け、根拠の示し方や説明の仕方を指導する。ノートには、問題の答えだけでなく、なぜそのような答えに至ったのかを図や式、言葉を使ってかくような授業を展開する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○習熟度の低いコースでは、「分かっていること」と「まだ分からないこと」を問題把握の場面で児童につかませ、既習事項を活用するための見方や考え方を取り上げる。習熟度の高いコースでは、学んだことを基に、児童自ら数や条件を変え、発展的に考えるように取り組む。</li> <li>○自分の考えを表現したくなるような学習課題を設定する。また、ペア学習やグループ学習を取り入れることで、相手意識をもたせ、相手が分かるような説明になるように図や式、言葉を使ってノートにかくように指導する。</li> </ul>
理科	<ul style="list-style-type: none"> <li>○結論を導出するための実験になっているのかを判断したり、得られた結果を適切に分析したりするのが難しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○どのような結果になるか見通しをもつことで、想定通りの結果にならなかったときに何が原因が分かるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○見通しをもたせる場面を設定する。また、得られた結果について話し合い、結論につながるかどうか判断できるようにする。想定通りの結果にならなかった場合には、問題解決の過程において、どの場面が原因になっているのか振り返り、仮説を見直したり、再度実験をしたりするように助言する。</li> </ul>

<p>体 育</p>	<p>○技能の定着に個人差がある。日常的に運動に取り組んでいる児童とそうでない児童の差が大きく、その運動の特性に合った動きの習得に時間を要する。</p> <p>○児童同士の関わり合いが十分でない。自分自身ができているか、できていないかで、その運動の善し悪しを決めてしまい、単元によって取り組みの意欲に差がある。</p>	<p>○運動のこつやポイントを示し、動きを意識しながら運動に取り組めるようにする。</p> <p>○運動は「すること」だけでなく、「みること」「知ること」「支えること」など、自分の適性に応じ、多様に関わろうとする時間や授業内容を意図的に設ける。</p>	<p>○自分の課題を見付け、自分に合った練習方法や場を選択できるようにし、課題解決に向けて取り組みやすいようにする。</p> <p>○児童同士で試技を見せ合ったり、アドバイスをし合ったりする時間を設け、児童同士の交流する機会をつくる。運動は個人だけでなく仲間と一緒に取り組む必要感を高める。</p>
<p>音 楽</p>	<p>○合唱や合奏を楽しんで取り組む姿勢がよく見られるが、苦手を克服することに意欲を持ってない児童もいる。</p> <p>○技能は高い児童が多いが、表現することにまで意識が向かない児童もいる。</p>	<p>○あきらめないこと、粘り強く取り組むことの大切さを伝える。</p> <p>○技能は表現のためにあることを自覚させ、どんな表現がしたいのか、児童の思考を深められるようにする。</p>	<p>○児童の実態を踏まえ、ICTの活用や、グループでの練習など、取り組みやすい環境を整備する。</p> <p>○楽曲からどのような表現が適切か、どのような思いを込めたいかを掘り下げられるように、教師側の教材研究を徹底し、児童一人一人の思いを大切にしながら深められるような声かけをする。</p>
<p>図 工</p>	<p>○細部まで丁寧に時間をかけて取り組むことができるが、活動時間の見直しをもって取り組みことが苦手な児童もいる。</p> <p>○豊かに発想できる児童も多いが、常識にとらわれ、発想することに苦手意識をもつ児童が増えている。</p>	<p>○毎時、完成までに使う授業時間を確認して、完成までの残り時間を考えさせながら、活動の見直しを持たせる。</p> <p>○人とは違った良さを認め合う活動を多くもち、自信をもって、自由に発想できるよう適切な声かけをする。</p>	<p>○授業の導入、途中、振り返りの時間で、丁寧に取り組む大切さを強調すると同時に時間内に完成させる大切さも伝える。</p> <p>○授業途中での鑑賞や技法・作品の紹介を取り入れながら、児童一人一人の造形的な表現力を高め、お互いの良さを認め合える機会を多くもつ。</p>
<p>家 庭</p>	<p>○班で協力して楽しく調理実習に取り組むことができたが、用具の使い方や調理の手順の基本が身に付いていない児童が多い。</p> <p>○家族の一員として、授業で学んだことを家庭で実践しようとする態度が育ってきている。しかし、家庭での実践や生活経験が乏しいため何から始めたらいいのか分からない児童も見られる。</p> <p>○手縫いの基本やミシンの正しい使い方が身に付いていない児童がいる。基礎基本を身に付けることが課題である。</p>	<p>○事前に基本のポイントを指導し、理解した上で実習に臨めるようにする。</p> <p>○家族の一員としてできることを増やしたり、レベルを上げたりすることをめざせるようにする。</p> <p>○既習内容を改めて確認し、基本的な作業が一人でもできるようにする。</p>	<p>○写真や動画を見せながら確認し、具体的な調理の方法やポイントを理解しやすくする。</p> <p>○「家庭でもやってみよう」と思えるように、具体的なアイデアを紹介したり、児童同士で出し合ったりする。</p> <p>○玉結び・玉どめなど、確実に身につけさせたい技能については、特にやり方を明確にし、指導内容の定着を図る。</p>
<p>外 国 語</p>	<p>○英語学習において、「聞く」「話す」活動に対して消極的（苦手意識）をもっている児童が見られる。</p> <p>○アルファベットが4線上に正しく書けない児童が見られる。</p> <p>○すぐに日本語での意味を確認しなくなってしまう、日本語で話し始めてしまう児童が見られる。</p>	<p>○児童が英語をより聞いたり、話したりすること（慣れる）ができる環境が望ましい。</p> <p>○なぞり書き、写し書きができるように支援する。</p> <p>○英語で話された内容について推測する力を育めるようにする。</p>	<p>○All English で進められるよう、外国語科の学習の流れを定着させる。また、ALTとの連携をより密にし、児童とALTが直接やり取りなどができるようにして英語を「聞く」、「話す」ことに慣れさせていく。</p> <p>○慣れ親しんだ単語や言葉を聞き取り、文字と音の関係を意識して書く場を多く設定していく。</p> <p>○児童が安心して学習に取り組めるよう手助けは必要だが、まずは自力解決するためにも思考の時間を確保して実態に応じた負荷の掛け方の調整をしていく。</p>